

第8期介護保険事業計画「取組と目標」に対する自己評価シート(令和4年度)

千葉県大網白里市

※「介護保険事業(支援)計画の進捗管理の手引き(平成30年7月30日厚生労働省老健局介護保険計画課)」の自己評価シートをもとに作成

項目番号	第8期介護保険事業計画に記載の内容			令和4年度(年度末実績)					
	区分	現状と課題	第8期における具体的な取組	目標(事業内容、指標等)	実施内容	自己評価	課題と対応策		
1	①自立支援、介護予防、重度化防止	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者が可能な限り健康な在宅生活を送るために、ロコモティブシンドロームやフレイルの予防等により、身体機能の維持を促進する必要がある。</li> <li>・市民の健康や介護予防に対する関心は高まっているものの、健康づくり事業、介護予防事業への参加者は固定化傾向にあり、増えてこない状況であることから参加者を増やすための取り組みが必要がある。</li> </ul>	健康づくりの普及啓発の推進 ・健康相談・健康教育の推進 ・健康づくりイベントの推進	食育・生活習慣病予防の推進	食生活改善協議会と連携し、生活習慣病予防のための事業(糖尿病予防講座2回・がん検診会場減塩チラシ配布10日間・簡単バランススクッキング3回)を実施した。	◎	一部の事業で参加者が固定化している		
2				フレイル予防の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通いの場にてフレイルチェック、健(検)診の受診勧奨を実施。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、健康づくり講演会は中止したが、代わりに参加者が70歳以上であった出前講座でフレイルについて説明しながらリーフレット配布、がん検診時にフレイル予防の動画を流しリーフレット設置をおこない、意識向上に努めた。</li> </ul>	○	フレイルチェックをした結果を周知できていないことが課題。		
3				健康ポイント事業の推進 ・R4 参加者数(計画)450人	若い年代にも周知を広げるため子育て支援館、子育て交流センターにも健康ポイント配布を依頼したが約2,300枚の配布で終わり、例年と変わらない配布数であった。 ・R4 参加者数(実績)236人	△	配布数が伸び悩んでいる。応募者の固定化が課題である。乳幼児の健診時に配布をして、若い年代の方に周知する。また、応募資格を変更して応募しやすくする。		
4	①自立支援、介護予防、重度化防止	<ul style="list-style-type: none"> <li>・疾病予防・介護予防の観点から、かかりつけ医を持ち、定期的な健康管理が重要となることから健診(検診)の受診促進、かかりつけ医の普及啓発を推進する必要がある。</li> <li>・市民の健康や介護予防に対する関心は高まっているものの、各種検診への参加者は固定化傾向にあり、増えてこない状況であることから参加者を増やすための取り組みが必要がある。</li> </ul>	疾病予防の推進 ・特定健康診査・特定保健指導の実施 ・各種検診・予防接種の実施	特定検診(国保+後期) ・R4 受診者数(計画)6,769人	特定検診(国保+後期) ・R4 受診者数(実績)4,377人 ・集団健診の全日程をがん検診(大腸、肺、前立腺)と同日に実施した。	△	特定検診 ・国保対象者については、受診率がコロナ前の水準まで戻っていない。健診受診習慣を失った者に対して、積極的な受診勧奨を行う必要がある。受診勧奨の回数を増やし、より多くの属性を持ったターゲットへ勧奨を行う。 ・後期対象者については、受診率がコロナ以前の受診率に近づいてきているので、引き続き受診者の利便性の向上及び受診率の向上を図っていく必要がある。 特定保健指導 ・毎年特定保健指導の対象となることで、慣れや飽きによる利用率の低下が起きている。成果を上げる保健指導の在り方について検討する必要がある。 推算塩分摂取量の検査・減塩指導 ・R3年度とR4年度で推算塩分量結果が2年連続高値だった方は、HbA1Cが高値、eGFR低値などの傾向がみられたため、R4年度とR5年度の2年連続塩分が高い方(目標量の2倍程度:推算塩分量15g以上)を抽出し、血液データを確認したうえで必要な資料を送付する。そのほか、特定健診受診者全員に減塩資料を結果に同封する。		
5				特定保健指導(国保) ・R4 修了者数(計画)452人	特定保健指導(国保) ・R4 修了者数(実績)71人 ・集団健診会場での保健指導初回面接分割実施を行った。コロナ下でも利用をしやすいよう、オンライン予約や通信(Zoom)による保健指導をできるようにした。			◎	コロナの影響により落ち込んだがん検診の受診者がまだ戻らない。集団がん検診は感染症や台風等の影響を受けやすいため個別検診を中心としたいが、交通手段等の理由で個別検診を受けることができない住民が移行できない。
6				推算塩分摂取量の検査・減塩指導 ・特定健診(集団)と合わせて推算塩分摂取量を検査し、健診結果送付時に減塩資料を同封して啓発した。	推算塩分摂取量の検査・減塩指導 ・特定健診(集団)と合わせて推算塩分摂取量を検査し、健診結果送付時に減塩資料を同封して啓発した。				
5		各種がん・歯周疾患・骨粗しょう症・肝炎ウイルス検診の実施 ・(65歳以上)R4 受診者数(計画)9,590人	がん検診の申し込みをQRコードの活用を開始し申込の簡便化を図った。コロナの影響もあったがR3年度より受診者数が伸びた。がん検診をより受けやすくするため個別検診を勧めていった。 ・(65歳以上)R4 受診者数(実績)7,862人	◎					
6		肺炎球菌ワクチン予防接種 ・R4 受診者数(計画)500人	肺炎球菌ワクチン予防接種 ・R4 受診者数(実績)515人	◎	インフルエンザと肺炎球菌の対象者が異なるため高齢者がわかりやすい通知が必要。				
6		インフルエンザ予防接種 ・R4 受診者数(計画)7,990人	インフルエンザ予防接種 ・R4 受診者数(実績)9,310人	◎					

項目番号	第8期介護保険事業計画に記載の内容				令和4年度(年度末実績)		
	区分	現状と課題	第8期における具体的な取組	目標(事業内容、指標等)	実施内容	自己評価	課題と対応策
7	①自立支援、介護予防、重度化防止	・認定率は国や県と比較すると低い水準だが、重度認定者の割合が高いことから、軽度認定者や要介護認定を受けていない高齢者の介護予防活動促進のため、介護予防の重要性の啓発や介護予防活動の検討を継続する必要がある。	介護予防・重度化防止の推進 ・介護予防普及啓発事業の推進 ・地域介護予防活動支援事業の推進 ・一般介護予防事業評価事業の推進 ・介護予防・日常生活支援総合事業の推進	いきいき元気クラブ(ストレッチやロコモ体操を中心とした自由参加型の教室) ・R4参加者数(計画)400人	年140回、市内3会場で実施した。また、連絡手段を増やす取組としてLINE配信を開始した。 ・R4参加者数(実績)421人	◎	参加者数の増加に伴い、受付作業を効率化する必要がある。バーコードリーダー等の機器を導入し、受付作業を効率化を図り、参加者数の増加に対応する。
8				ロコモ体操普及事業 ・R4 DVD貸出件数(計画)100件	フレイル予防のDVDを150部配布。また、通いの場等でロコモ体操の普及啓発を実施。 ・R4 DVD貸出件数(実績)150件	◎	普及率を把握できていない。
9	①自立支援、介護予防、重度化防止	・公的サービスに限らない、市民や地域の事業者・団体等による多様な取組みを活用した、効果的な介護予防ケアマネジメントを行い、自立支援・重度化防止を行う必要がある。	介護予防・重度化防止の推進 ・介護予防・日常生活支援総合事業の推進	訪問型サービス 介護予防訪問介護相当サービス、訪問型サービスA、B、C、D ・R4利用者数(計画)237人	訪問型サービス 介護予防訪問介護相当サービス、訪問型サービスA、B、C、D ・R4利用者数(実績):178人	○	介護予防訪問介護相当サービス ・多様なサービスを実施している、事業所・団体や委託先がなく、従前相当のサービスの提供が主になってしまっている。自立支援・重度化防止の観点で介護予防ケアマネジメントを実施できるよう多様なサービスを充実させる必要がある。 訪問型サービスA及びC ・実施事業所なしのため実績なし。実施できる事業者を開拓する必要がある。 訪問型サービスB及びD ・担い手となる人材の高齢化が進んでいるため、新規人材の確保に苦慮している。
10				通所型サービス 介護予防通所介護相当サービス、通所型サービスA、B、C ・R4利用者数(計画)301人	通所型サービス 介護予防通所介護相当サービス、通所型サービスA、B、C ・R3利用者数(実績):173人	△	介護予防通所介護相当サービス ・多様なサービスを実施している、事業所・団体や委託先がなく、従前相当のサービスの提供が主になってしまっている。自立支援・重度化防止の観点で介護予防ケアマネジメントを実施できるよう多様なサービスを充実させる必要がある。 通所型サービスA ・実施できる事業者を開拓する必要がある。 通所型サービスB 活動団体が1団体1地域にしかないため、団体数や地域を増やす必要がある。 通所型サービスC ・閉じこもりがちな高齢者や、サービスが必要な対象者にサービスを受けてもらうために募集方法や抽出方法を検討する必要がある。
11	②介護給付等費用の適正化	・在宅及び居住系サービスの受給者1人あたりの給付月額が国・県と比較して高い水準となっている。 ・必要な方へ必要なサービスが行き渡る体制を整備するために、介護サービスの適正利用を促進しつつ、介護給付の適正化による持続的な介護保険運営を行う。	介護保険サービスの強化・充実 ・介護給付の適正化に向けた取り組み	認定調査状況の点検 ・R4点検件数(計画)2,285件	認定調査状況の点検 ・R4点検件数(実績)1,745件	○	介護申請が増加する中で認定までに日数がかかっているため、引き続き調査員の増員や調査委託先の開拓に努める。
12				ケアプランの点検 ・R4点検件数(計画)12件	ケアプランの点検 ・R4点検件数(実績)12件	◎	助言をもとに事業所がケアマネージャーに促して、ケアマネジメントの質を高められるか。
13				住宅改修・福祉用具の点検 ・R4住宅改修点検件数(計画)10件 ・R4福祉用具点検件数(計画)10件	住宅改修・福祉用具の点検 ・R4住宅改修点検件数(実績)0件 ・R4福祉用具点検件数(実績)0件	×	住宅改修、福祉用具ともに年12件の調査を実施し、不当な利用等の防止に努める。
14				医療情報との突合・縦覧点検 ・R4点検件数(計画)4回	医療情報との突合・縦覧点検 ・R4点検件数(実績)12回	◎	引き続き、提供サービスの整合性の点検に努める。
15				介護給付費通知 ・R4点検件数(計画)7,000件	介護給付費通知 ・R4点検件数(計画)2,008件	×	送付対象、回数の見直しをおこなう。

※行が足りない場合は追加してください。なお、主要な取組に絞って報告いただいても問題ありません。